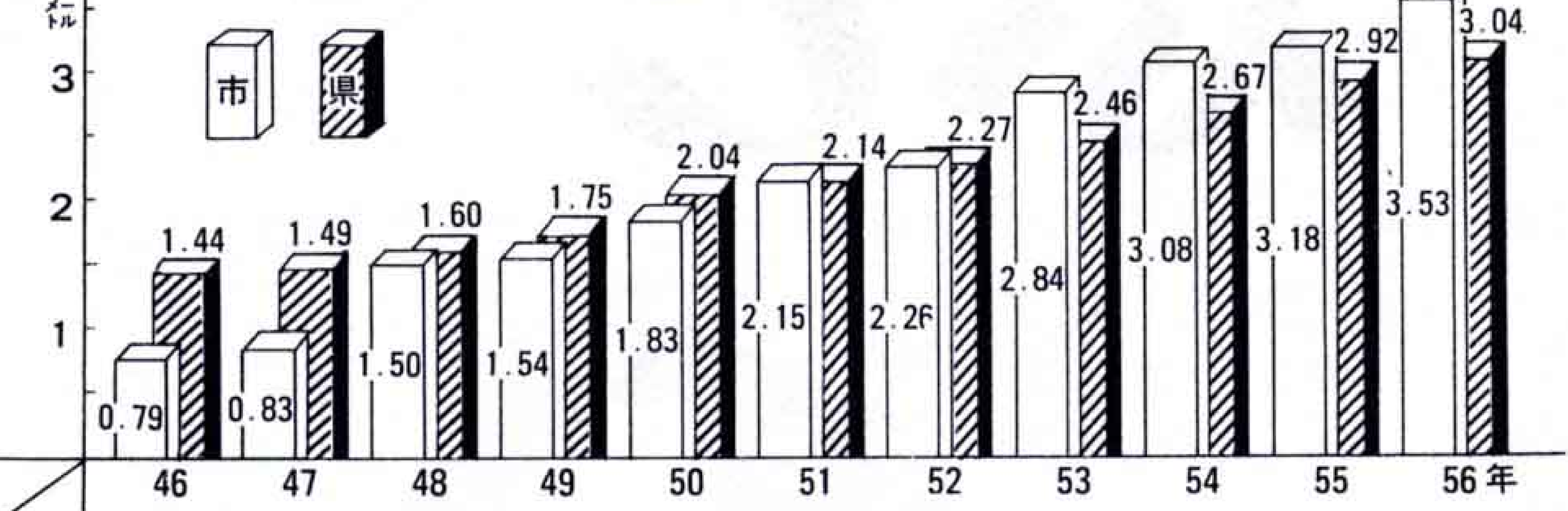




市民と県民の1人当りの公園面積



あなたは、公園に行ったことがありますか？もし、あなたの行った公園が汚れていたり、荒れ放題だったら……。

このようなことのないよう、近くにある公園を自分たちの手できれいにし、守っていこう—というのが公園愛護会。

市内には、この愛護会によって管理されている公園が、52カ所あります。この中の一つ、鷹岡にある入山瀬公園を滝川に住む主婦、長島澄子さんにレポートしていただきました。

# 公園は私たちの顔

地区民の当番制で維持管理

S L公園で知られる

入山瀬公園

レポーター

主婦 長島澄子さん (50歳)

東滝川町



## 公園を守る愛護会

現在富士市には、73ヶ所の公園が設置されています。その目的によってそれぞれの名称があるわけですが(例えば児童公園、緑地公園など)

私は鷹岡にある入山瀬公園をルポしてみました。

その名の示すように入山瀬駅の西

側にあるこの公園は、広さは0.33<sup>ヘクタール</sup>と中規模ながら近隣6地区の当番制によって、ていねいな管理がなされています。区子ども会・婦人会・老人会など、去年は延べ1,099名の人たちの労力奉仕があったとか。実に整然としており、地区民の公園への愛情がそここにみられ、まず心うたれました。公園の半分は、全くの広場で小グラウンドという感じですっきりしていて、周囲の生垣もきれいに刈り込まれ、チリひとつない、すがすがしい風景でした。

## 行き届いた管理運営

公のものだからと他人まかせにせず、近所の人はもちろん、公園愛護会の会員がたえずみまわっている

# 第1位は田子浦臨港線

## 交通量調査結果まとまる

市は、昭和57年度の交通量調査結果をこのほどまとめました。

調査結果によると、市内で交通量が最も多かったのは、今年4月、西富士バイパスと連結した田子浦臨港線の2万254台。次いで、昨年1位だった臨港富士線の1万3,061台。3番目が富士鷹岡線の1万1,891でした。

富士鷹岡線は、一昨年まで、市内で最も交通量の多い道路でしたが、今年より485台減少していました。また、昨年との伸び率で一番高かったのが田子浦臨港線の1.77倍。

交通量調査は、7月28日の午前7時から午後7時までの12時間、市内18カ所で行いました。



西富士バイパスと接続した田子浦臨港線

そうです。専業主婦である私には、愛護会という名も初耳でしたのに、事業計画や予算書などもみせていただき、行い届いた管理運営にただ感心するばかりでした。みんなの、この公園に対する愛情が、そくそくと伝わってきます。

ひるがえって、私たちの町にも公園があるはず、一度目を向けてみたいものです。市民のやすらぎの場であり、災害時には大事な避難場所にも指定されている各地域の公園、手入れは、なされているでしょうか。

## ● 客車はデゴイチ文庫

さて、入山瀬公園の特徴のひとつは、何といてもD51の存在です。

蒸気機関車D51は、昭和52年にここに運ばれました。自由にさわったり乗ってみることも出来、国鉄OB会の手入れによりぴかぴかです。さすがに本物の美しさといおうか、その重厚な姿は昔の日本家屋をハウフツさせるようななつかしさと、にふい



蒸気機関車D51の前で取材中の長島さん

輝きがありました。

客車は、なんとデゴイチ文庫という図書館に改造され、車内には約1,400冊の本が陳列されています。冷暖房に電話、水洗トイレの設備も整い、こざっぱりした感じでカーテンの色ひとつにしても細やかな心づかいがみられて好感がもてました。

私は、入山瀬公園愛護会会長の植松さん、梶原さん、小林さんの3人と向かいあってシートに坐り、ほんの少しの間旅の気分を味わいながら、公園のこと文庫のことを聞かせていただきました。



デゴイチ文庫で旅の気分を味わいながら読書

## 社会科の見学コースにも

入山瀬駅から歩いて2～3分

この人たちを代表とする愛護会があればこそ、公園も文庫も発展を続けていくことだろうと、次に来る時が楽しみになりました。市内小学校の社会科見学のコースにここも入っているとか。たまには身延線に乗って入山瀬駅下車徒歩2～3分でSLを見に行くもよし、月、水、土曜の午後1時からと第2日曜午前中開館のSL文庫をのぞいてみるのも良いでしょう。近隣の人々のやすらぎ

の場である公園。緑に囲まれ、ひろばには思いっきり走りまわる子どもがいて、区切ってドッシリ構えるD51があって、文庫もあってここは小さいながらも一つの理想郷といえるかもしれません。ともあれわが富士市は、山麓の自然に恵まれプラス富士山という大きな財産をもっています。それらをバックに各地区にちらばっている小公園のひとつひとつを守り、いつくしみ育てて行くことが私たちの責任でもあり、使命でもあらうと思われま

## 障害者に働く場を!

つどいで企業に訴える

“ひろげよう障害のり越え働く職場、をテーマに「心身障害者雇用促進運動」が9月1日から30日まで展開されています。

この運動は、障害者の社会参加や雇用促進に対する理解と協力を広く求めていくことが目的。

期間中の9月11日、「障害者の福祉

と雇用を勧めるつどい」が吉原市民会館で開かれ、あいさつに立った三宅一良富士職安所長は、市内の身障者の雇用率は1.58%で全国や県の平均を上回っている。しかし1.50%の法定雇用率を達成していない企業が31%もあるので、是非協力してほしいと訴えました。



あいさつする三宅富士職安所長